

Since2014

YJS(ヤンゴン日本人学校)

派遣者通信

第1号

2014年6月4日

文責 市橋 良浩

MYANMAR Press



ついにヤンゴンでの生活がスタート。ミャンマーにはミステリアスがいっぱい。



4月9日(火)成田発ヤンゴン行の飛行機に乗り、赴任地ミャンマー国ヤンゴンへ出発しました。途中機内からは残雪残る富士山を見下ろし、予定より1時間遅れてヤンゴン国際空港に到着しました。

空港到着後は現地の派遣教員及びスタッフの方の出迎えを受け、不安な気持ちも和らぎました。現在のミャンマーは、1950年代～60年代の日本を感じさせるような、何をするにも人海戦術で、高層マンションを建設するにも竹の足場を組み作業する人々の姿が見られます。しかし近年、急激にインターネットが普及し、どこの店に行っても大抵Wifi環境が整っており、7インチタブレットで平気で電話をする現地の人々の様子が見られます。

私の住むアパートは13階建てで、1階がイギリス様式のグランドフロアになっており、その9階(実際は10階)に部屋を準備していただきました。現在ミャンマーは不動産バブルの真っ只中にあり、自分が住んでいる住居も数年前の家賃から比べ2～3倍になっており、今後3年間この部屋で暮らすことができるかどうか不安の種の1つです。

街に出歩くと常にカーチャッテ(交通渋滞)の嵐です。行き交う車は8割がトヨタ車。近年貧富の差が開いており、時折、ランボルギーニやロールスロイスを目にすることができます。街で走るバスは30年以上前の日本車が日本語の文字(〇〇商店など)そのまま走っています。このアンバランスなところがとてもミステリアスに感じます。



ヤンゴン市内では至る所に金色の仏塔(パゴタ)が見られます。休日はミャンマーの人々はお参りに行っているようです。

また歩道脇にローカルフードレストランがあります。ここでは目玉焼きつきのタミンジョウ(チャーハン)やミャンマーの伝統料理モウヒンガーを食べることができます。

またミャンマーでは日本にはない食べ物や飲み物があり、ア〇エアースに炭酸が入った100プラスという飲み物や、暑い日には水同様に食卓に上がるミャンマービールが名物です。また果物も大変美味しく、ゼイ(市場)で生のライチを購入し家族で食しています。ただ水事情は非常に厳しく、飲み水はミネラルウォーターを購入し、それ以外は煮沸して使用しています。



ミャンマーの常識① 路上に出たら人間も車も同等～車は急に止まれないの当たり前ですが、現地の人々は決して車に負けません。センターラインを堂々と歩く現地人を目の当たりにするのは珍し

くありません。車は右側通行なので「左見て、右見て、もう一度左を見て」の指導ですが、日本のように歩行者優先では決してありません。

ミャンマーでどこまで体験できるか？

その1 髪を切ってみる。



連日の気温30度越えは当たり前。常に毛穴は開きっぱなし。ちょっと動けばシャワーに入ったのではと思うぐらい汗だくになってしまう始末。北海道も最近では37度越えのニュースも聞きますが、赴任した4月、5月は降雪のニュースを耳にしました。

汗もかけば当然髪も伸びる。職場の先生の紹介でローカルの床屋に行き髪を切ってみました。オールバリカンで不安もありましたが、それがまた上手に切ってくれます。あまりにも上手なのでわが子2人もそこで切ってみました。2人とも微動だにせずおとなしくしていました。

料金は3人合わせて3000Ks(約300円)です。ただし親子みんな同じ髪型になってしまいました...

わがクラスは中学部2年4名です。



私の担任する学級は中学部2年生4名(男子3名、女子1名)です。男子の2名は父親の仕事の関係で、ラオスやブラジルなどほかの国での駐在経験があり、残る1名は小学校の低学年までは日本の学校に通学し、中学年からミャンマーの日本人学校で勉強しています。女子1名は今年の4月より保護者の仕事の関係で来緬しています。

小中併置校の学校状況からか、少数精鋭ではありますが学習や学校行事においてリーダーシップを発揮してくれています。ただ受験や保護者の転勤等の関係で年度途中にも出入りが激しいのが中学部の特徴です。

ミャンマー語講座 1

海外でのコミュニケーションはあいさつからということで、今回は簡単な挨拶を紹介します。

こんにちは…ミンガラバ ありがとうございます…サーローカウンデー いただきます…サーローメー
ごちそうさまでした…サーローピービー チョーソーバーデー…ようこそ (ミャンマー語でサーとは食べるという意味です。)

離日に関わりたくさんのお心遣いありがとうございました。

振り返れば2か月前、新学期業務でご多忙の中、遠い新千歳空港まで見送りに来ていただいた同僚の皆様ありがとうございました。展望デッキより大きな激励の横断幕を目の当たりにし、本当にしばらく北海道に戻ってこれない寂しさと、諸先輩との飲み会での激励の言葉を思い出し、胸にこみ上げるものがありました。

この度のヤンゴン日本人学校への派遣にあたり緑陽中学校旧3学年の先生並びに教職員の皆様、また在外教育施設の数多くの情報を与えていただいた胆振国際理解教育研究会の皆様には大変感謝しております。

派遣期間である3年間で現地で生活する日本人社会に貢献できるよう努力するとともに、数多くのミャンマーの情報を日本にお伝えしたいと思います。また学習指導要領に掲げられているグローバル人材を育成する教員としてスキルアップを目指して充実した毎日をご過ごしていきたいと思っております。最後に派遣に関わり、たくさんのお心遣いをいただきありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

